

高知県幡多郡大月町

埋蔵文化財発掘調査報告書

長沢地区・八反地遺跡・エノ木谷遺跡・神ノ木遺跡・鉢土越遺跡試掘確認調査報告書

2009. 3

高知県幡多郡大月町教育委員会

高知県幡多郡大月町

埋蔵文化財発掘調査報告書

長沢地区・八反地遺跡・工ノ木谷遺跡・神ノ木遺跡・鉛土越遺跡試掘確認調査報告書

2009. 3

高知県幡多郡大月町教育委員会



出土石器



出土土器

巻頭図版 2



長沢地区



春遠・八反地遺跡（A区）



鉢土越遺跡

序

大月町は高知県の西南部、南は太平洋、西は周防灘から瀬戸内海へと通じる豊後水道の南の玄関口に位置し、豊かな自然、温暖な気候風土に恵まれた農業と漁業の盛んな町です。

本町の埋蔵文化財包蔵地は54を数え、初めて考古学調査が行われた昭和48年のムクリ山遺跡以降、現在まで尻貝遺跡、竜ヶ迫遺跡、ナシケ森遺跡の学術調査の他、ムクリ山遺跡等、開発に伴う試掘確認調査を実施してまいりました。

本書は大月町教育委員会が、平成9・10年度に実施した長沢地区及び春遠地区に所在する3遺跡と、平成19年度に実施した鉾土越遺跡試掘確認調査の成果について報告したものです。

特に鉾土越遺跡の所在する鉾土地区は、大月町内でも最も標高の高い大洞山(465m)を源泉とする河川が谷筋を流れ、丘陵面に旧石器時代の遺跡が所在していることが分布調査により判明しています。周辺地域からも石器、剥片類が採取され、高知県内でも旧石器時代の遺跡が多い市町村と位置付けられています。

本報告書が、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、学術研究の向上に少しでも貢献できることを願う次第であります。

最後になりましたが、調査の実施、報告書の作成にあたりましては関係各位から多大なご協力とご指導をいただきました。また、事業実施の際には周辺地域の皆様に、ご理解とご協力を頂きました。厚く感謝致します。

2009年3月

大月町教育委員会

教育長 長山 健二

例　言

1. 本書は、幡多郡大月町教育委員会が1997・1998年度に実施した長沢地区及び春遠地区に所在する3遺跡（八反地遺跡、エノ木谷遺跡、神ノ木遺跡）と、2007年度に実施した鉢土越遺跡試掘確認調査の成果をまとめた報告書である。
2. 調査は、国庫・県費補助金の交付を受け、高知県教育委員会の指導のもと大月町教育委員会が実施した。
3. 調査に至る原因及び現地調査の期間
 - 長沢地区
原因：「長沢地区集約農業地域再編総合整備事業（担い手育成型）区画整備工事」
期間：1997年9月25日～10月8日
 - 八反地遺跡・エノ木谷遺跡
原因：「大月町春遠地区県営土地改良総合整備事業（担い手育成型）区画整備工事」
期間：1997年10月9日～11月6日
 - 神ノ木遺跡
原因：「大月町春遠地区県営土地改良総合整備事業（担い手育成型）区画整備工事」
期間：1998年11月9日～11月29日
 - 鉢土越遺跡
原因：「町道拡幅工事計画」
期間：2007年11月1日～12月27日
4. 現地調査及び本報告書作成にあたっては、高知県教育委員会文化財課、（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター、宇和島市教育委員会、大分県考古学協会会員 山口将仁氏にご教示を賜った。また、現地調査の際には長沢地区・春遠地区・鉢土地区住民の方々に多大なご協力を頂いた。感謝申し上げます。
5. 出土遺物の略号は、長沢地区「97ONG」、春遠地区・八反地遺跡「97OH-H」、春遠地区・エノ木谷遺跡「97OH-E」、春遠地区・神ノ木遺跡「98OH-K」、鉢土越遺跡「07O-HOKO」とし、遺物等資料の保管は大月町教育委員会が行っている。
6. 付編の「ムクリ山遺跡出土石庖丁の使用痕分析」は、大月町龍ヶ迫字ムクリ山に所在する「ムクリ山遺跡」出土の石庖丁を、2008年3月1日～10月8日の間、宇和島市教育委員会に貸出し、宇和島市教育委員会が兒玉洋志氏（西予市教育委員会）に委託し資料調査を実施した。その成果を掲載させて頂いた。

目 次

巻頭カラー

序

例 言

本文目次

I 長沢地区（縄文）

1. 長沢地区的概要	
(1) 地理的環境	1
(2) 遺跡の概要	1
(3) 調査方法	1
(4) 土層状況及び遺物出土状況	1
(5) 出土遺物	3
(6) まとめ	3

II 春遠地区（中世）

1. 春遠地区的概要	
(1) 地理的環境	4
(2) 歴史的環境	4
(3) 原因・調査	4
2. 八反地遺跡	
(1) 遺跡の環境	5
(2) 土層状況及び遺物出土状況	5
3. エノ木谷遺跡	
(1) 遺跡の環境	6
(2) 土層状況及び遺物出土状況	6
4. 神ノ木遺跡	
(1) 遺跡の環境	6
(2) 土層状況及び遺物出土状況	6

III 鉢土越遺跡（旧石器・縄文）

1. 鉢土越遺跡の概要	
(1) 地理的環境	9
(2) 調査方法	9
(3) 土層状況及び遺物出土状況	10
(4) まとめ	10
出土石器観察表	14
出土土器観察表	14
参考文献	14

付編 ムクリ山遺跡出土石庖丁の使用痕分析

1.はじめに	29
2.石庖丁が出土した環境	29
3.ムクリ山遺跡出土石庖丁の使用痕分析について	
(1) 遺物の所見	30
(2) 使用痕分析	30
(3) 考察	31
(4) 結論	32

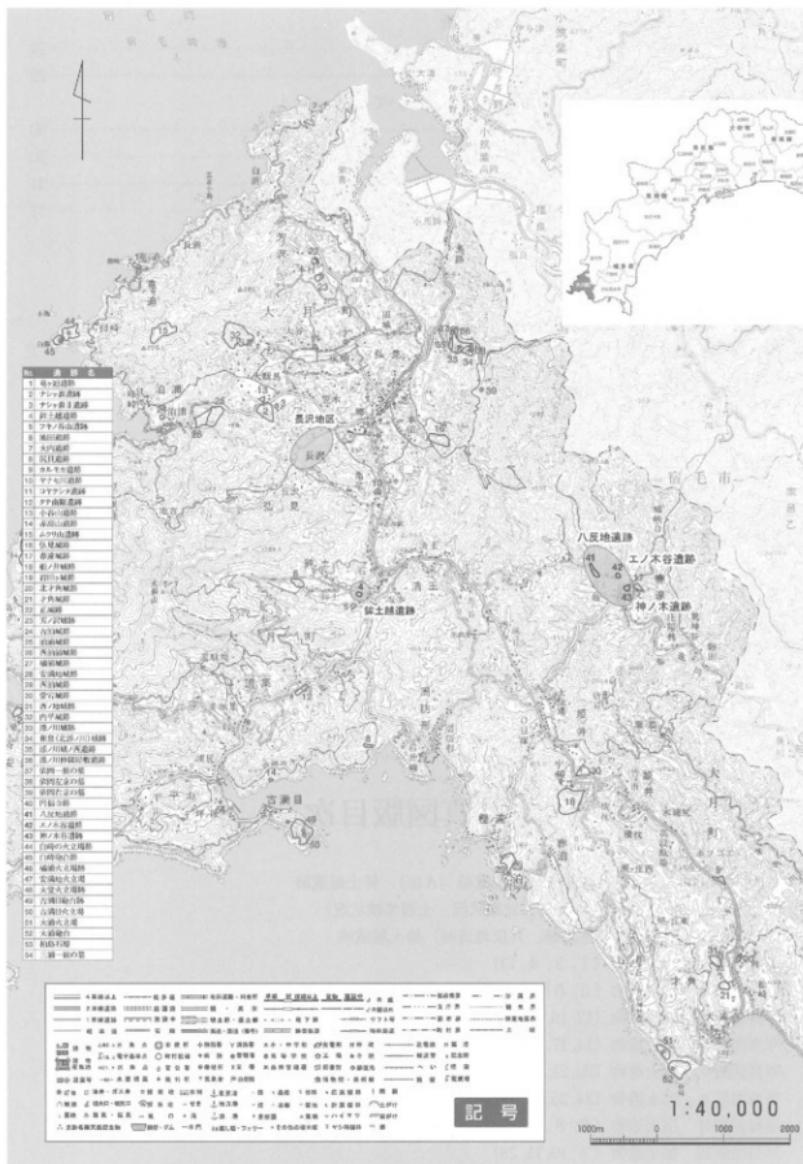
報告書抄録

挿図目次

第1図 遺跡分布図（調査区位置図）	
第2図 長沢調査区位置図	1
第3図 平面図（TR 1～5）	2
第4図 土層柱状図	2
第5図 出土遺物実測図（1, 2）	3
第6図 春遠調査区位置図	4
第7図 平面図（B区）	5
第8図 平面図及びセクション図（TR 7・TR 9）	5
第9図 セクション図（TR42）	6
第10図 出土遺物実測図（3～5）	7
第11図 出土遺物実測図（6～11）	8
第12図 鉢土越遺跡位置図	9
第13図 鉢土越遺跡調査区位置図	10
第14図 セクション図（TR12）	10
第15図 出土遺物実測図（12～18）	11
第16図 出土遺物実測図（19～23）	12
第17図 出土遺物実測図（24～29）	13

写真図版目次

巻頭図版 1	出土石器 出土土器片
巻頭図版 2	長沢地区、春遠・八反地遺跡（A区）、鉢土越遺跡
写真図版 1	鉢土越遺跡（TR 5、完掘状況、土層堆積状況）
写真図版 2	春遠（神ノ木遺跡、八反地遺跡）鉢土越遺跡
写真図版 3	出土遺物（1, 3, 4, 13）
写真図版 4	出土遺物（2, 5）
写真図版 5	出土遺物（12, 15, 16）
写真図版 6	出土遺物（14, 17, 18, 19）
写真図版 7	出土遺物（20, 21, 22, 23）
写真図版 8	出土遺物（24, 25, 26, 27, 28）
写真図版 9	出土遺物（6, 8, 9）
写真図版10	出土遺物（7, 10, 11, 29）



I | 長沢地区（縄文）

調査期間：1997年9月25日～10月8日

所 在 地：大月町長沢2978番地 他

調査原因：長沢地区集約農業地域再編総合整備事業（担い手育成型）区画整備工事に伴う試掘確認調査

調査面積：調査対象面積 約7,000m²
調査面積 210m²

1. 長沢地区の概要

(1) 地理的環境

長沢地区は町の北部、10の集落からなる弘見地区の1地域で、町役場より北西約2kmに位置する。標高は約60mを測り、周囲は山に囲まれ谷川に沿って集落が点在している。

町内には、旧石器時代から弥生時代にかけての主な遺跡として、ナシケ森遺跡・ムクリ山遺跡・竜ヶ迫遺跡・尻貝遺跡等が所在しており、長沢地区はナシケ森遺跡の北西約1kmの地点に所在するため、関連する遺跡が発見される可能性がある。



第2図 長沢調査区位置図

(2) 遺跡の概要

長沢地区は埋蔵文化財包蔵地として登録されていないが、1994年から学術調査を実施していたナシケ森遺跡の調査員が周辺地域の踏査をした際、大分県姫島崖黒曜石の剥片を当地の畠で複数発見した。このことにより、圃場整備事業の前に試掘確認調査を実施することとなった。

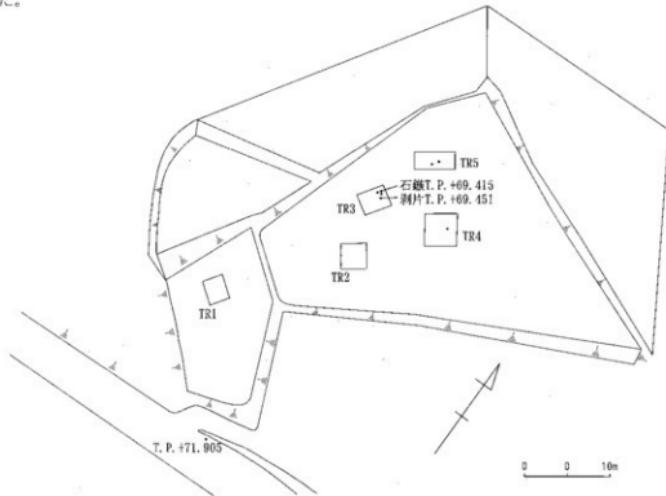
(3) 調査方法

調査対象区内の必要な部分について草刈りを行い、トレンチは任意の地点に設定した。掘削にあたっては、人力及び重機によって作業を進め、調査の進行に応じ測量、写真撮影等により記録を残した。

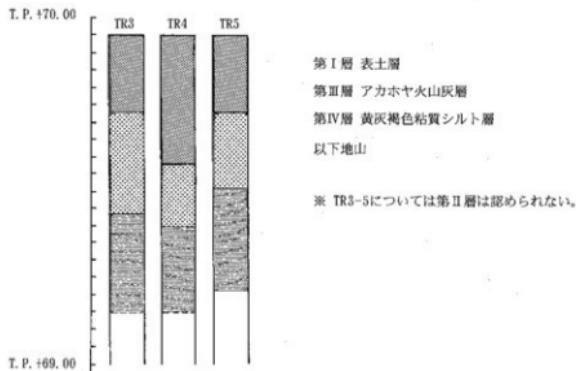
(4) 土層状況及び遺物出土状況

堆積は、河川の氾濫による浸食、客土による搅乱層の面が多く見られ、耕作土中から既に姫

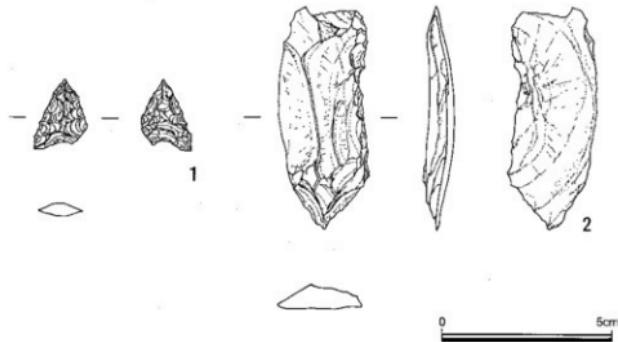
島産黒曜石の剥片、チップなどが採取できる。基本層序は比較的土壌の安定した縁辺部で観察した。第Ⅰ層は耕作土で35cm前後である。第Ⅱ層は明黄褐色の漸移層で、厚さは不安定である。第Ⅲ層はアカホヤ火山灰の堆積が認められるが、二次堆積の可能性も考えられる。第Ⅳ層は灰黄褐色粘砂質土に礫が混入する。以下は地山である。出土遺物は微量ではあるがTR3～5で、珪質頁岩の剥片、姫島産黒曜石の剥片やチップ等を、第Ⅲ層の下層から第Ⅳ層の直上で確認した。



第3図 平面図 (TR 1 ~ 5)



第4図 土層柱状図



第5図 出土遺物実測図（1, 2）

(5) 出土遺物

1は姫島産黒曜石を石材とし、表裏ともに中央部まで調整加工を施し、脚部を一部欠損する。
2は頁岩製の剥片を素材とし、裏面にパルプが発達する横長剥片である。

(6) まとめ

圃場整備の対象地域は、客土による擾乱層、河川の氾濫による浸食、湧き水による湿地面が多く、藤辺部の調査を中心に実施した。第Ⅱ層でアカホヤ火山灰の堆積も確認したが、二次堆積の可能性が強く、残念なことに当時の生活面を確認することはできなかった。北西側に隣接するナシケ森遺跡との関連の可能性は少ないものの、縄文時代早期の遺物の出土により、大月町内に、この時代を前後する未発見の遺跡が多く残されていることを示唆している調査であったことは、非常に大きな収穫である。

II 春遠地区（中世） (八反地・エノ木谷・神ノ木遺跡)

名 称	調査期間	所 在 地	調査面積	対象面積
八反地遺跡	1997.10.9～11.6	大月町春遠字八反地995～999番地	184m ²	約7,000m ²
エノ木谷遺跡	1997.10.9～11.6	大月町春遠字エノ木谷886～887番地	12m ²	約4,000m ²
神ノ木遺跡	1997.11.9～11.29	大月町春遠字神ノ木661～662番地・字池ノ谷663	80m ²	約13,252m ²

1. 春遠地区的概要

(1) 地理的環境

春遠地区は、町の東部に位置し、東は今ヶ森山山系を隔てて土佐清水市、北は三階山山系を隔てて宿毛市、西は清王、南は姫ノ井地区に接する。山に囲まれた農林業主体の地域で、集落は貝の川上流春遠川流域に点在する。県道清王新田貝の川線が南東進して土佐清水市に至る。

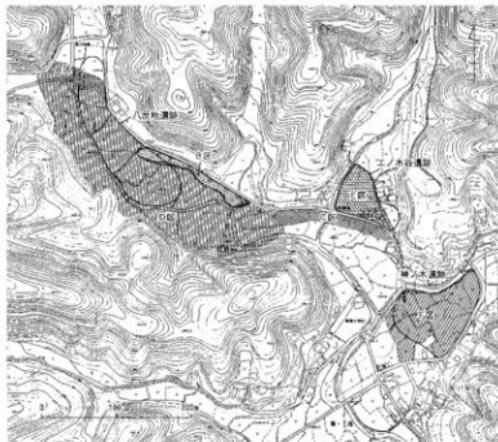
(2) 歴史的環境

集落のほぼ中央部には春遠城跡が所在する。春遠城は郭が南北に約80m、東西に約40m、詰と二ノ段が残存する。堀は南側に東西に向かって2条、北側に東西に向かって1条と北側に南北に向かって縱堀2条が残存する。城主は「国古領主附小城主次第」によれば、春遠四郎左衛門とあり、八反地遺跡・エノ木谷遺跡・神ノ木遺跡は春遠城跡の麓の谷間に所在する。これらの遺跡は、1987年の分布調査で発見され、遺跡からは青磁・備前・肥前・唐津・中世須恵器等の破片が出土しており、周辺地域の人々の暮らしへ春遠城と深く関わりがあったと考えられる。

(3) 原因・調査

大月町春遠地区県営土地改良総合整備事業（担い手育成型）区画整備工事に伴う試掘確認調査。

調査は、圃場整備対象地及び県道拡幅工事範囲に任意でトレッチを設定し、重機及び人力で層序の確認、遺構・遺物の検出に努めた。調査区はAからFまで設定した。



第6図 春遠調査区位置図

2. 八反地遺跡

(1) 遺跡の環境

八反地遺跡は集落の西の谷に所在する。

分布調査の際、土師質土器片、常滑壺片、

備前片、青磁片等が数点表面採取された。

遺跡の範囲は東西約50m、南北約140m

で、掘立柱建物等が発見される可能性が
あった。

(2) 土層状況及び遺物出土状況

A区は、旧河道で軟弱地盤である。二

次堆積による搅乱層面が多く見られるが、

TR 4 の第Ⅱ層(床土)と第Ⅲ層(搅乱

層)の間から東播系須恵器の甕片とこね

鉢が出土した。B区の堆積は比較的安定

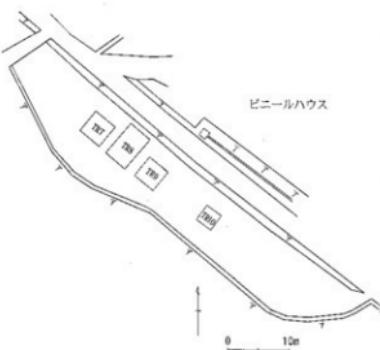
しており、TR 7では、瓦質土器片、中世

土師質土器片、磁石、ピットが確認されたため調査範囲を拡張した。また、TR 6では、大分県

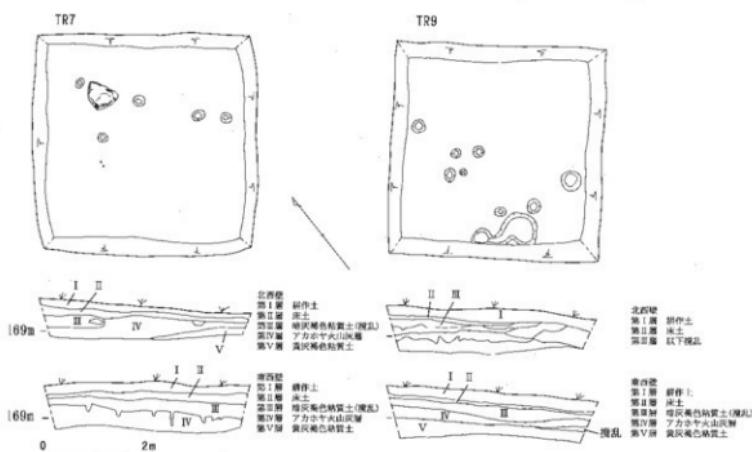
姫島産黒曜石の石鏃が第Ⅱ層より出土した。この地にも縄文時代の人々の生活面の痕跡が存在

する可能性が想定できる。C区のTR11~14については、客土による搅乱層で、遺物・遺構は検出できなかった。D区では、TR16で、自然木、炭化物が出土し、川沿いのトレンチでは砂利が

多く見られた。



第7図 平面図（B区）



第8図 平面図及びセクション図（TR 7・TR 9）

3. エノ木谷遺跡

(1) 遺跡の環境

エノ木谷遺跡は春遠城の西の谷間に所在する遺跡で、分布調査では、土師質土器片、常滑窯片、近世の磁器が採取された。遺跡の範囲は東西約70m、南北約70mである。

(2) 土層状況及び遺物出土状況

調査では2m×2mのトレーニングを3か所設定した。いずれも耕作土中より中近世の遺物（土師質土器片、青磁片等）を数点確認したが、遺構の検出には至らなかった。

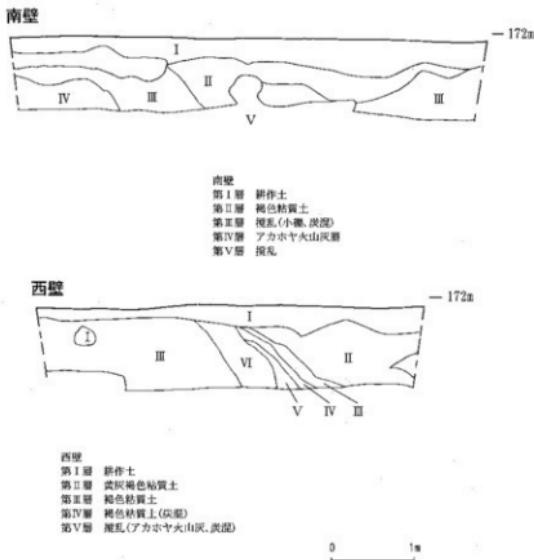
4. 神ノ木遺跡

(1) 遺跡の環境

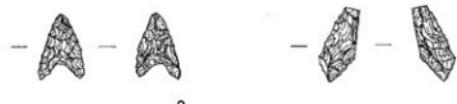
神ノ木遺跡は、3遺跡の中で、春遠城跡に一番近い位置にあり、当時の住居跡等が発見される可能性があると期待がもたれた。しかし、土地改良が繰り返され客土による搅乱が多く生活面の発見にはいたらなかった。

(2) 土層状況及び遺物出土状況

調査では、城跡の真下に位置する畑に南北6m、東西4mのT字トレーニング（TR42）を設定した。中央付近を50~60cm掘り下げたところから、石積みが出土した。南側の水田では、表土より古錢が出土したがいずれも近世のものと考えられる。



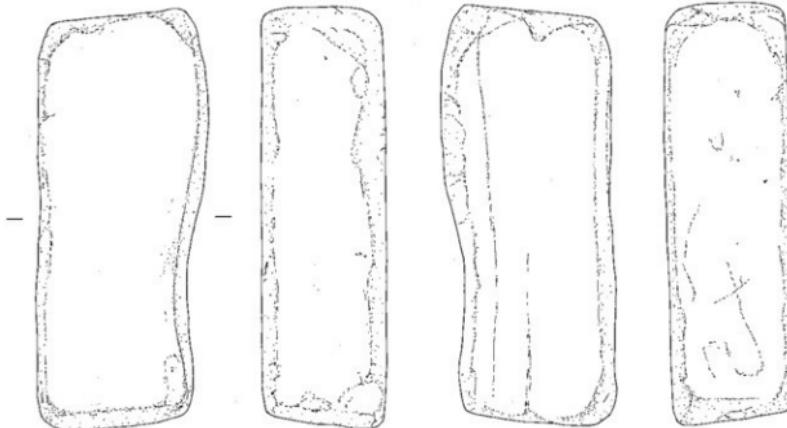
第9図 セクション図 (TR42)



3



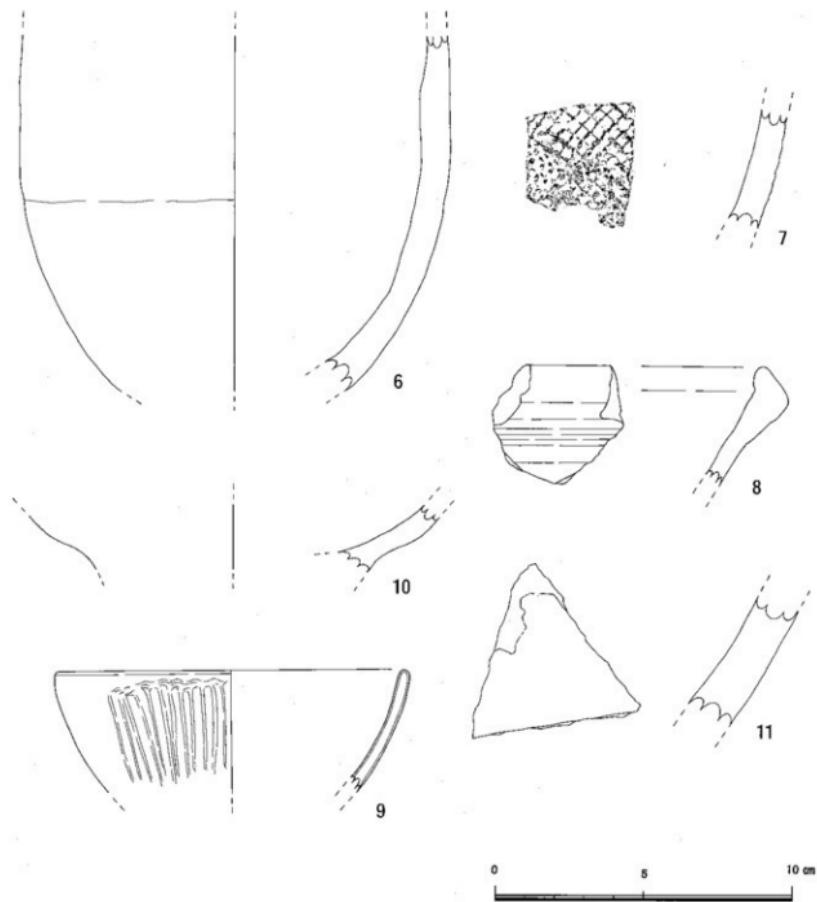
4



5



第10図 出土遺物実測図 (3~5)



第11図 出土遺物実測図 (6~11)

III 鉢土越遺跡（旧石器・縄文）

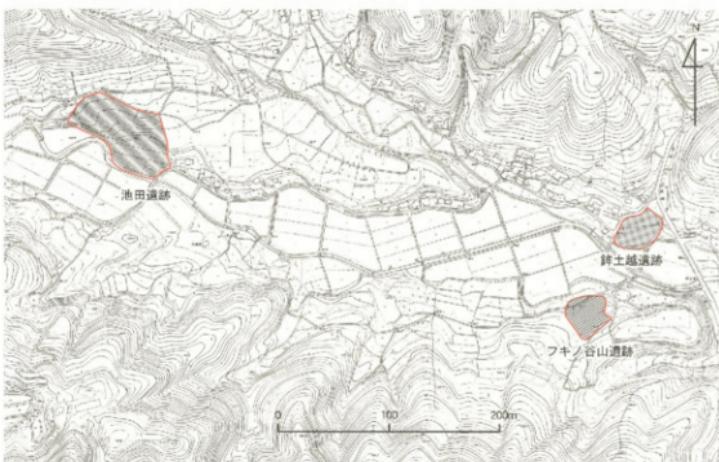
調査期間：2008年11月1日～12月27日

所 在 地：大月町鉢土字鉢土越75-2 他

調査原因：町道拡幅工事計画

調査面積：調査対象面積 約4,600.00m²

調査面積 123.54m²



第12図 鉢土越遺跡位置図

1. 鉢土越遺跡の概要

(1) 地理的環境

鉢土地区は町のほぼ中央部。最高峰大洞山の東方に位置する。周囲は山に囲まれ、集落は山麓に点在し、稲作や菓タバコが生産される。地区内中心を鉢土川が北から南へ流れる。また、東部を国道321号が通り、地内東部二ツ石で、南進する主要県道柏島二ツ石線を分岐する。

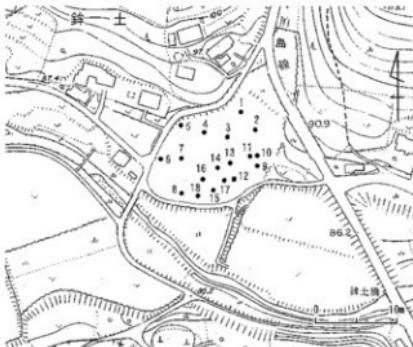
鉢土地区には、鉢土越遺跡・フキノ谷山遺跡・池田遺跡の3つの遺跡が所在し、これらの遺跡からは、ナイフ形石器をはじめとする剥片類が2000年の分布調査の際、採集された。石材は主に珪質岩製である。

(2) 調査方法

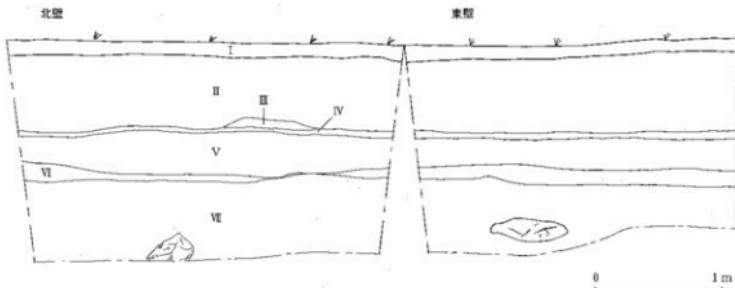
調査対象地域に、3m×3mを基本とするトレンチを設定し、表土及び無遺物層を重機を利用して除去した後、人力で遺物包含層の掘削及び遺構検出に努めた。

(3) 土層状況及び遺物出土状況

調査対象地は面積約4,600m²で、その約50%以上は表土以下地山である。過去に圃場整備を実施しており、堆積が認められる部分でも客土・搅乱層が殆どであるが、TR12で、客土の下層より比較的安定した堆積層を確認し、少量の遺物を検出した。それらは、ナイフ形石器をはじめとする珪質頁岩製の剥片類である。



第13図 錐土越遺跡調査区位置図



第14図 セクション図 (TR12)

第I層 耕作土

第II層 黄褐色粘質土 (10YR 5/8)

第III層 旧田 黑褐色粘質土 (10YR 6/8)

第IV層 旧床土 明黄灰褐色 (10YR 3/2)

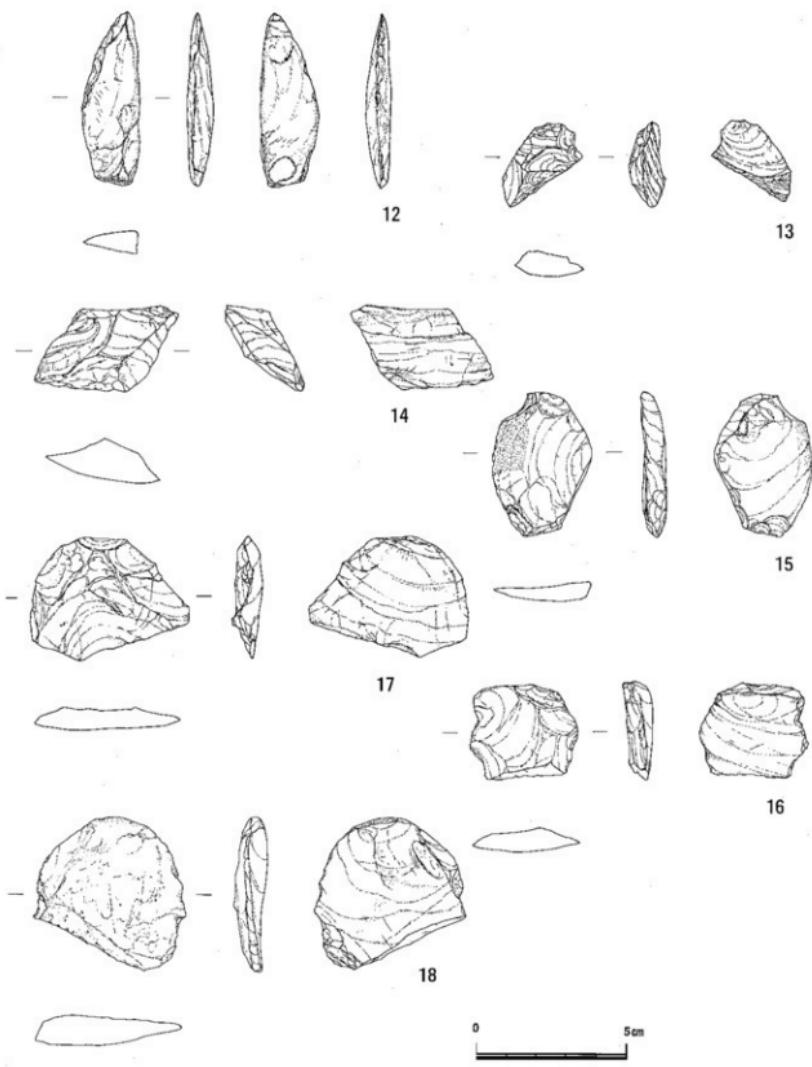
第V層 黑褐色アカホヤ盛植土 (10YR 3/1)

第VI層 アカホヤ火山灰層 (10YR 4/4)

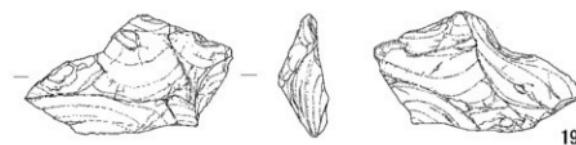
第VII層 黒褐色砂礫土 (10YR 3/2)

(4) まとめ

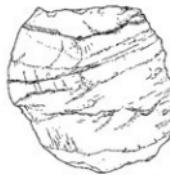
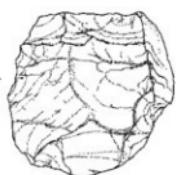
調査では、TR12で客土の下層より比較的安定した堆積層を確認したものの、遺構の確認はできなかった。全体の出土遺物は、縄文時代後期のものと思われる。しかし、姫島産黒曜石の剥片と数点の遺物から縄文時代早期の可能性も考えられる。少量の表土・堆積土中から、微量ではあるが時代を特定できる石器類を検出できたことは、本遺跡の性格、周辺地域の歴史を知る上で貴重な資料となった。



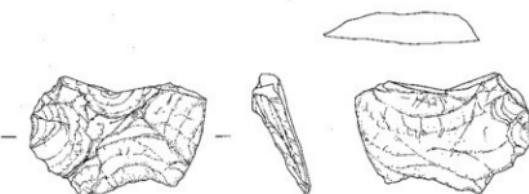
第15図 出土遺物実測図 (12~18)



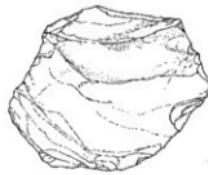
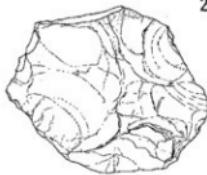
19



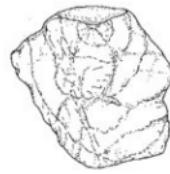
20



21



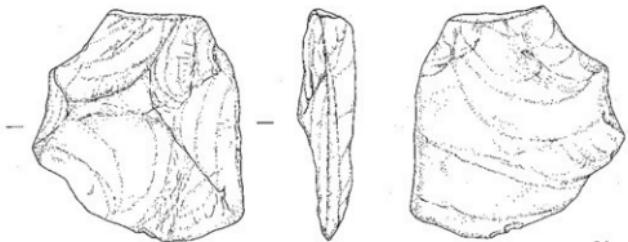
22



23

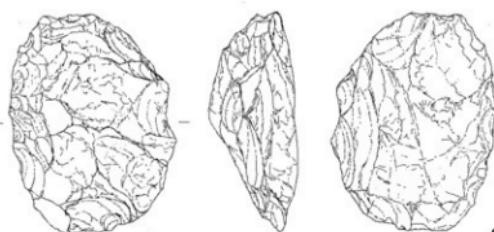


第16図 出土遺物実測図 (19~23)



24

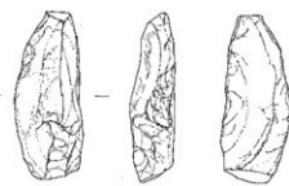
0 5 cm



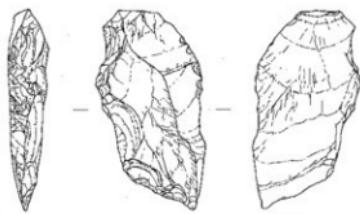
25



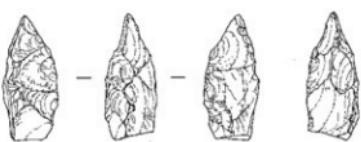
0 5 10 cm



27



26



28



29

第17図 出土遺物実測図 (24~29)

0 5 cm

出土石器観察表

No.	調査区	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴
1	長沢堆区	石鏃	21	15	4	8	姫島産黒曜石	基部欠損
2	長沢地区	スクレーパー	66	25	7	13.6	頁岩	
3	八反地遺跡	石鏃	19	13	4	6	姫島産黒曜石	完形
4	八反地遺跡	石鏃	23	10	3	0.7	姫島産黒曜石	先端部・右半部・左基部欠損
5	八反地遺跡	砥石	125	45	37	434	砂岩	
12	鉢土越遺跡	ナイフ	59	19	8	10	頁岩	
13	鉢土越遺跡	剥片	27.5	26	8	4.5	姫島産黒曜石	右下面に礫皮面を残す
14	鉢土越遺跡	剥片	34	48	14	21.2	頁岩	
15	鉢土越遺跡	剥片	49	33	6	14.8	頁岩	
16	鉢土越遺跡	剥片	33	36	8	13	頁岩	
17	鉢土越遺跡	剥片	53	41	7	19.2	頁岩	
18	鉢土越遺跡	剥片	52	51	10	28.2	頁岩	表面礫皮面
19	鉢土越遺跡	剥片	41	70	73	30.8	頁岩	
20	鉢土越遺跡	剥片	55	56	10	46.4	頁岩	
21	鉢土越遺跡	剥片	41	58	9	24	頁岩	
22	鉢土越遺跡	剥片	55	68	17	66.5	頁岩	
23	鉢土越遺跡	剥片	54	55	9	29.6	頁岩	風化
24	鉢土越遺跡	剥片	67	60.5	16	70.5	頁岩	風化により剥離面摩耗
25	鉢土越遺跡	石核	104	79	46	394	頁岩	
26	フキノ谷山遺跡	剥片	67	36	13	372	頁岩	
27	フキノ谷山遺跡	ナイフ?	56	22	15	22.2	頁岩	風化強い
28	泡田遺跡	角錐状石器	43	16	17	13.2	頁岩	
29	大内遺跡	翼状剥片	37	60	9	27.8	頁岩	風化層1mmと厚く風化強い表面は風化により黄褐色

出土土器観察表

No.	調査区	器種	器形	法量(cm)			内面	外面	断面	特徴
				口径	器高 (残り)	胴径				
6	神ノ木遺跡	壺前	壺		12.0	13.6	7.5YR 4/3 褐色	7.5YR 6/1 褐灰	7.5YR 6/2 褐灰	2片接合 煤付着
7	春 遺	中世須恵器	壺片				5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	N4/ 灰	
8	春 遺	中世須恵器	壺片		4.0		N6/6 灰	(口縁部) N3/3 褐灰 (胴部) N6/6 灰	N6/6 灰	東播系こね鉢 口縁部は上下に大きく拡張され、「く」字状の形態に近い縁唇を形成する。
9	春 遺	青磁	碗	12.0	4.2		7.5GY 7/1 明緑灰	7.5GY 7/1 明緑灰	5Y7/1灰白	細蓮弁文
10	春 遺	土師器片	坏		1.8		5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐色	ベタ高台
11	春 遺		壺片				2.5YR6/6 橙	7.5YR4/1 褐灰	2.5YR6/6 橙	

参考文献

中世土器研究会：概説 中世の土器・陶磁器

九州近世陶磁学会：九州陶磁の編年 一九州近世陶磁学会10周年記念一

全国シンポジウム「中世常滑焼をおって」資料集

写真図版



鉢土越遺跡（TR 5）



鉢土越遺跡（完掘状況）



鉢土越遺跡（土層堆積状況）

写真図版2



春遠（神ノ木遺跡）



春遠（八反地遺跡）



鉢土越遺跡



3



3



1



1



4



4



13



13



2



2



5



5



12



12



15



15



16



16

写真図版 6



19



19



14



14



17



17



18



18



22



22



21



21



20



20



23



23

写真図版 8



24



24



25



25



26



26



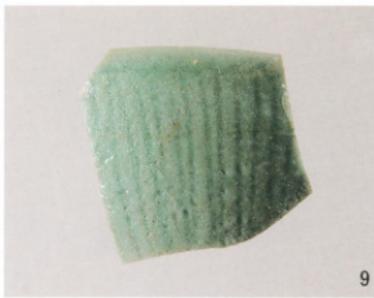
27



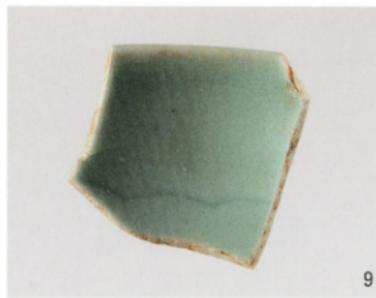
28



6



9



9



8



8



7



7



10



10



11



11



29



29

付 編

付編 ムクリ山遺跡出土石庖丁の使用痕分析

1. はじめに

宇和島市教育委員会は、2004年より押鷺山貝塚という弥生期の貝塚遺跡を調査しており、2005年12月押鷺山貝塚の関連遺跡としてムクリ山遺跡の現地及び資料調査を行った。後に記載する使用痕分析データは、宇和島市教育委員会が押鷺山遺跡関係資料調査として兒玉洋志氏（西予市教育委員会）に委託し使用痕分析を実施した資料である。

2. 石庖丁が出土した環境

石庖丁は大月町北部の尾根に所在するムクリ山遺跡より出土した。ムクリ山遺跡は標高約260mに位置する所謂「高地性集落」である。調査は、1973年と1992年に学術調査を実施、2001年から2003年と2005年に開発に伴う試掘確認調査及び本発掘調査を実施した。

調査では、堆積土壤は浅く遺物の残存状態も良好とはいえないが、土器片をはじめとする遺物を多く確認した。出土遺物の時期は1973年以前に表面採取されたものと併せて考えると縄文時代早期から前期と弥生時代中期から後期に大別することができる。しかし、これらの遺物には、防衛的高地性集落の特徴である鉄鏃や大型石鏃等の武器類は含まれておらず、焼や匂、敲石や砥石といったどちらかといえば調理器具に属するものが多く生業的集落を示唆するものである。

本書で報告する石庖丁は2005年の調査で出土した石器である。



ムクリ山遺跡（石庖丁出土地点）

3. ムクリ山遺跡出土石庖丁の使用痕分析について

兒玉 洋志

(1) 遺物の所見

実測図は、高知県幡多郡大月町に所在するムクリ山遺跡から出土した石庖丁である。抉り入り方形を呈する部分磨製石庖丁で、石材は頁岩が用いられる。長さ6.0cm、幅5.05cm、最大厚1.2cmを測る完形品である。断面形は、片面が丸味を帯び反対の面が波打つように凹凸のある形態で、刃部は刃角59°を測る偏両刃である。

以下、実測図左側をA面、右側をB面とする。背部はB面側から主に打撃を加えられ、平坦面を形成する。抉り部も同様にB面側から剥離され、背部の剥離面を切る。また、A面の体部全面と刃部、B面の刃部には研磨が施されている。体部の研磨は背部・抉り部の剥離面に及び、刃部の研磨は抉り部の剥離面に入る。なお、B面体部には大きな剥離面が残存しており、断面形と併せて考えると、本来A面が自然面、B面主要剥離面であったと推定できる。

以上から、次のような製作工程が考えられる。

- ①円錐の表面に打撃を加え、横長剥片を割りとる
- ②背部にB面側から打撃を加え平坦面を作る
- ③B面側から打撃を加え、抉り部を作り出す
- ④A面（自然面）全体を研磨する。
- ⑤A B両面から刃部を研ぎ出す。

使用痕については、肉眼観察で、A面の研磨部分全体、B面刃部に摩滅と鈍い光沢が認められた。A面はとくに体部中央部と刃部左側に強い光沢が観察された。また、B面刃部左側の剥離は、穢に摩滅しており使用時の剥離と考えられる。刃部に研ぎ直された痕跡はない。

本資料は、包含層中の土器より弥生時代中期後葉～後期初頭の所産と考えられる。

(2) 使用痕分析

本資料は石庖丁とされているが、その根拠は形態からの推定と思われる。そこで、使用痕分析を行うことにより確実な器種認定と使用法の復元を試みたい。肉眼観察では、いくつかの使用痕と思われる痕跡が観察された。これが本当に使用痕なのか、使用痕であれば何を対象物としたのか解明するために、金属顕微鏡による観察を行った。

観察は、オリンパス製BX30-MDF、PEAK製ワイドスタンドマイクロスコープⅡ 2054-150 CILを併用し、100倍、150倍を行った（写真撮影の際には200倍、400倍も利用している）。その際には、エタノールで汚れを除去している。金属顕微鏡で判断できる使用痕には、数種類の十数種類の光沢と線状痕がある。光沢の種類は対象物と関係し、線状痕は運動の方向を示すとされる〔阿子島1989〕。この光沢の強弱を5mmメッシュで判定し、実測図にマッピングしたものを作成した。光沢分布図と呼称する。光沢の強弱は、対象物との接触回数の度合いを示し、同一の石器における同一の光沢であれば、光沢が発達しているほど対象に何らかの動作を行った頻度が高いことになる。

観察の結果、本資料には2種類の光沢が認められた。

まず、Bタイプと呼ばれる光沢の形成が認められた（フィルム②-1、2、7、リバ-1～5、12、13）。この光沢は、銀色で丸いハッチ状を呈し、イネ科植物、木材、竹等を対象とした際に生じるとされる〔阿子島 1989〕。強弱の基準は土色帖から引用し、視野の5%未満を弱、5～10%を中心、それ以上を強とし色分けを行っている。本資料では弱のみ、B面左縁辺および中央の鎌部を中心にみられ、光沢の上に縦方向の線状痕が観察された。A面には形成されていない。

次に、凹凸が激しくきめの粗い、銀色に鈍く輝く光沢が観察された。この光沢は、F 2またはE 1タイプに比定される可能性がある〔阿子島 1989〕。前者は、光沢の発達の初期段階にみられ、後者は生皮の掻き取りなどで生じる光沢とされる。ただし、本石材での光沢形成実験を行っておらず、推測の域を出ないため、今回は不明光沢とする。この光沢は、顕微鏡視野内の広範囲に形成され強弱の判断が難しいため、厳密な基準を設げずとくに発達した部分を強、それ以外を弱として色分けを試みた。不明光沢は、A面全面に観察され、なかでも背部縁辺、抉り部縁辺、体部中央、左側刃部に発達している。B面では、背部縁辺、抉り部縁辺、刃部に観察されたがA面ほど発達していない。この結果は肉眼観察における鈍い光沢の分布範囲と対応するようである。

最後にその他の使用痕について、研ぎ直しは金属顕微鏡下において表面のきめの変化で確認できるが、本資料ではそのような痕跡はみられない。また、刃縁の剥離には摩滅がみられた。このため、肉眼観察の結果はおおむね肯定された。

(3) 考察

まず、Bタイプ光沢が確認されたことにより、イネ科植物、木材を対象物の候補として挙げることができる。しかし、本資料の刃部は研磨され銳さや耐久性が不足しており、木材の加工には向きである。イネ科植物を対象とした可能性が高く、収穫具と考えるのが妥当である。また、光沢の上に縦方向の線状痕がみられることから、刃部と直交方向の運動が行われていることが分かる。BタイプはB面左側縁辺と鎌部を中心にみられ、少なくともB面を表にして、右手で刃部左側に穂を押しつけ手首を返して擦むという動作が想定できる（穂刈、根刈等では横方向に光沢と線状痕が発達する）。しかし、光沢の発達は部分的で弱く、長期間におよぶ連続的使用がなされたとは考えにくい。

次に、不明光沢であるが、背部付近、抉り部の縁辺に発達しているものは、手すれおよび組ずれによって生じた可能性が考えられる。この場合、抉り部にBタイプ光沢が見られないことを考えると、植物の紐は使用していない可能性が高い。A面側に発達が著しいのは、掌と直接触れ合い、しかも研磨面の光沢の発達が早いためと考えられる。

また、A面刃部左側とB面刃部における不明光沢の分布については、二つの可能性が考えられる。

①対象が異なる・・・A面側を上に向けて使用。光沢の形成過程が不明なため、対象物は不明である。

②手ずれ・・・・・・B面を表に向けて握り使用した際、小形の形態のため、ちょうど右
手の薬指と小指で刃部を巻き込む形になる。B面刃部は穂穂を摘む
際の手ずれか。

現状ではどちらが正しいのか判断できない。

(4) 結論

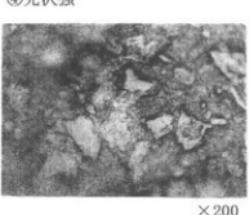
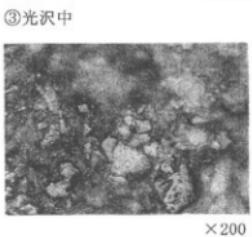
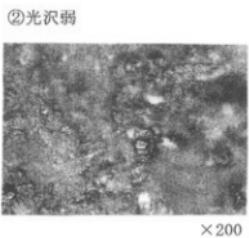
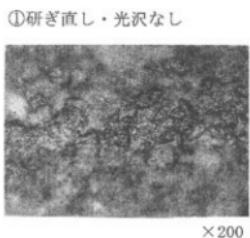
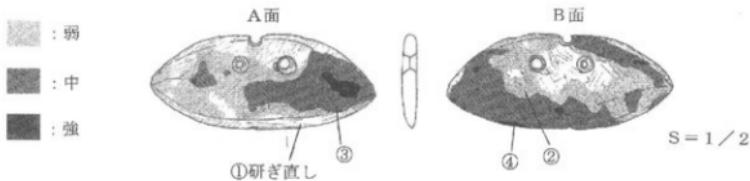
以上から本資料は、抉り部に紐をかけ、B面側を表にして右手でイネ科植物の穂摘みを行つ
た可能性が高い。ただし、研ぎ直しの痕跡が見られない、Bタイプの発達が弱いなど、長期間
にわたる使用は想定しづらい。また、異なる対象に使用した可能性も指摘できる。この点につ
いては、石器のもつ意義や生活の様相まで変わってくる恐れがある。ムクリ山遺跡から出土し
た多数の打製刃器とともに、使用痕分析・光沢の形成実験を踏まえて慎重に考察する必要があ
ろう。



第1図 抜入石庖丁の使用法（御堂島1988より引用）

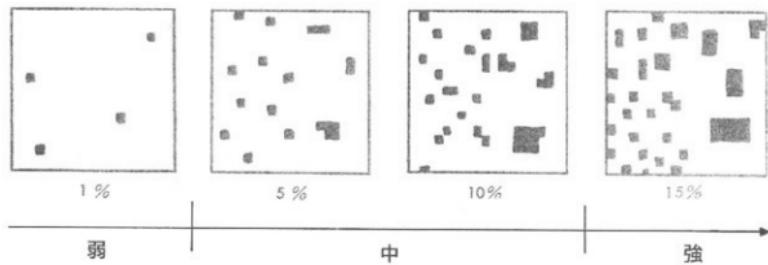
参考文献

- 阿子島香 1989『考古学ライブラリー-55 石器の使用痕』ニューサイエンス社
御堂島正 1988「『抜入石庖丁』の使用痕分析—南信州弥生時代における打製石器の機能—」
『古代文化』第41巻第6号、古代学協会、19-27頁



光沢強度の基準（土色帖 2001 年度版より引用）

・ $\times 100$ の視野内 ($2\text{ mm} \times 2\text{ mm}$) の光沢分布模式図



第2図 光沢分布図凡例



A面



B面



抉り部 1



刃部側から



抉り部 2



A面



B部



A面刃部製作時の剥離と摩滅状況



B面刃部右側摩滅状況



A面刃縁摩滅痕



A面抉り部



A面背面の剥離



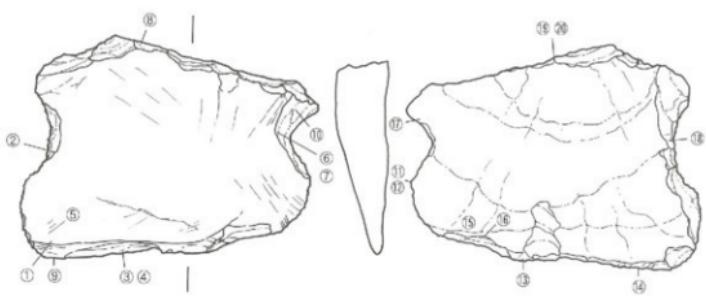
B面刃部



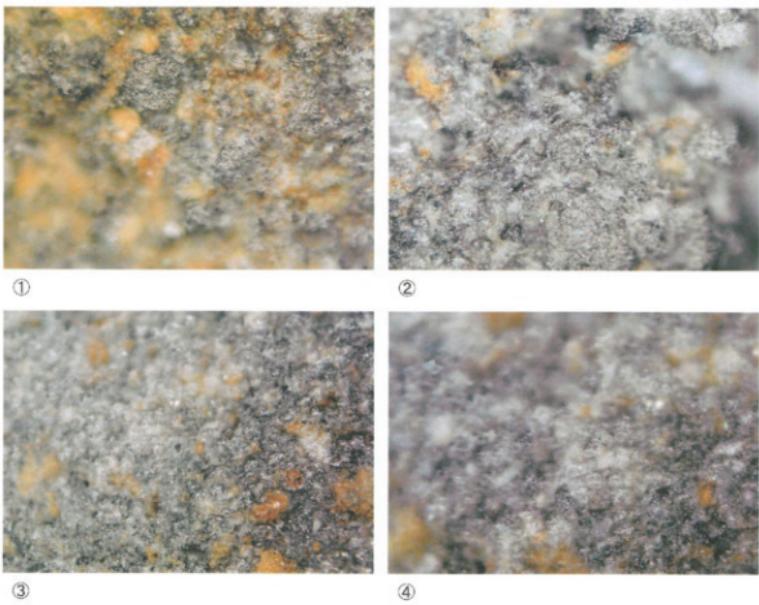
B面左縁辺摩滅状況



A面中央部摩滅状況



第3図 写真撮影位置図





⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



⑲



⑳

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいはつくつちょうさほうこくしょ
書名	埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	長沢地区・八反地遺跡・エノ木谷遺跡・神ノ木遺跡・鉢土越遺跡試掘確認調査報告
卷次	
シリーズ名	大月町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第8集
編著者名	坂本由美子
編集機関	大月町教育委員会
所在地	〒788-0302 高知県幡多郡大月町弘見2230番地
発行年月日	2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
長沢地区	大月町長沢2978番地 他	39424		32°49'9"	132°42'20"	1997. 9.25~10.8.	210	圃場整備事業
八反地遺跡	大月町春遠字 八反地995~999番地	39424	500040	32°49'21"	132°44'12"	1997. 10.9~11.6	184	圃場整備事業
エノ木谷遺跡	大月町春遠字 エノ木谷886・887	39424	500041	32°49'17"	132°44'51"	1997. 10.9~11.6	12	圃場整備事業
神ノ木遺跡	大月町春遠字 神ノ木661~662番地・ 宇泡ノ谷663番地	39424	500042	32°49'12"	132°44'58"	1997. 11.9~11.29	80	圃場整備事業
鉢土越遺跡	大月町鉢土字 鉢土越75-2 他	39424	500052	32°49'9"	132°42'20"	2008. 11.1~12.27	123.54	町道拡幅計画
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
長沢地区	散布地	縄文		姫島産黒曜石、頁岩剥片				
八反地遺跡	散布地	室町		土師質土器片、常滑窯片、備前片、 青磁片				
エノ木谷遺跡	散布地	室町		土師質土器片、常滑窯片、近世磁器				
神ノ木遺跡	散布地	室町		備前窯片、青磁片、近世陶磁器片				
鉢土越遺跡	散布地	旧石器		ナイフ形石器、頁岩剥片類				

大月町埋蔵文化財調査報告書

- 第1集 『尻貝遺跡』 1991
- 第2集 『竜ヶ迫遺跡・ムクリ山遺跡』 1994
- 第3集 『大月町文化財地図』 2000
- 第4集 『ナシケ森遺跡』 2001
- 第5集 『ムクリ山遺跡』 2005
- 第6集 『ムクリ山遺跡II』 2007
- 第7集 『尻貝遺跡II』 2007
- 第8集 『埋蔵文化財発掘調査報告書』 2009

大月町埋蔵文化財調査報告書 第8集

埋蔵文化財発掘調査報告書

長沢地区・八反地遺跡・工ノ木谷遺跡・神ノ木遺跡・鉢土越遺跡試掘確認調査報告書

編集・発行 大月町教育委員会

高知県幡多郡大月町弘見2230番地

電話 0880-73-1111(代表)

発行日 2009年3月31日

印 刷 西村謙写堂